

令和元年度第2回碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会 会議録

1 日時

令和元年11月11日（月）午後1時30分から午後2時15分まで

2 場所

碧南市役所2階 会議室3

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員

碧南市副市長 松井 高善（委員長）

東海税理士会刈谷支部副支部長 伴野 義雄

日本福祉大学教授 青木 聖久

民生委員児童委員協議会代表 鳥居 隆幸

旧心身障害児者を守る会会長 小林 明子

NPO法人ゆるりん理事長 磯貝 厚子

碧南市総務部経営企画課長 生田 和重

(2) 欠席委員

なし

(3) 事務局職員

福祉こども部長 遠山 隆夫

福祉課長 杉浦 浩二

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 澤田 直也

4 傍聴者

0名

5 議題

(1) 令和2年度以降の碧南ふれあい作業所指定管理者候補の選定について

(2) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（松井委員長）

(2) 議題

(1) 令和2年度以降の碧南ふれあい作業所指定管理者候補の選定について
事務局が会議資料に基づき、議題(1)を説明した。その後、審議した結果、承認された。

＜主な意見・質疑＞

【委員】

令和元年11月10日に行われた市民ふれあいフェスティバルの会場で、ふれあい作業所が日中一時支援として利用者と来場している姿を見かけた。支援員が利用者のことを良く把握しており、適切な距離感で見守っていると感じた。また、利用者の方々も、安心して楽しんでいる様子で、良好な関係性ができていると感じた。引き続き、このような支援環境が維持されることを期待する。

【委員】

日頃より、サンビレッジ衣浦などの公共施設でも、ふれあい作業所のみならず、ダブルエッチジェーの職員が支援にあたっている姿をよく見かけるが、利用者が安心して余暇を楽しんでいると感じる。このような関係が続いていくと良いと感じる。

【委員】

市内の公園にて、ふれあい作業所の農園班が、花の植え替え作業をしている場面を見かけることがある。支援員は、利用者に上手に声掛け等を行い作業の支援をしていると感じる。

【委員】

令和2年度から令和6年度までの予算案において、非常勤職員給与、法定福利費及び退職共済掛金の予算額がほぼ同額で、人件費の増加が想定されていない。全国的な平均賃金は増額していくとされているため、予算計上においても考慮し、現在の良好な支援体制の維持のためにも、職員の質の確保に努めてほしい。

【委員】

指定管理者制度としては、利用者の実態を踏まえた事業の継続性の担保も考慮すべきと考えられる。また、現指定期間の評価が良好であるため、任意指定として管理者を選定することも適当と思われる。ただ、施設の管理運営を行うことが制度の趣旨であり、その委託料が年間35万円とのことであるので、次の5年間に於いて、民間事業者による施設運営の是非等、次期指定期間以降の施設の在り方について、よく検討を重ねてほしい。

【委員】

公の施設の運営を考えていく中では、実際に施設を利用する当事者の声を踏まえることが重要である。各委員の発言からも利用者にとって好ましい事業運営ができている様子が地域で見られていることが分かり、その継続が期待できると思われるので、今後は、このような個別事例による当事者の声をまとめ、施設運営の評価の一環として可視化できるよう取り組んでほしい。また、質の向上に向けた職員研修などについても、外部に向けて実態が分かるような取り組みを行い、公の施設としての透明性を心がけてほしい。

また、指定管理にて運営する事業所としては、他の民間の事業所とは異なる特色として、市が考える作業所の姿を実現するだけでなく、障害福祉を取り巻く様々な課題への対応や方針を検討する際に、実際の福祉現場の現状を把握するための拠点として情報を提供することも取り組んでほしい。実際の当事者の声や福祉現場の実情把握を踏まえ、市の方針や取組にどのように活かしたのか、明示できるよう取り組んでほしい。

【委員】

今回、指定管理者の選定の協議にあたって保護者会の会長からの意見は確認できしており、各委員からも地域で見かける利用者の様子から、当事者にとっても良好な支援ができていると思われるが、周囲からの観測だけでなく、利用している当事者の意見も確認できると一層良いと思う。利用者全員からの完璧な意見徴収は困難だと思うが、検討は進めてほしい。

【委員】

このような福祉現場の職務従事者に対しては、近年、ストレスケアなど従業員を支える取り組みが重要視されている。法人として従業員にどのように接しているかということは、福祉事業においては重要なことであると思う。今回審査会資料等からは、施設従事者の状況がなかなか見えてこなく、人件費支出予算もあまり増額されていないが、従業員を支援する取り組みも進めてほしい。

【委員】

現在の碧南ふれあい作業所の職員の定着率などの状況は。

【事務局】

具体的な数値等状況は把握できていないが、離職率が高く課題となっているとい

った報告はなく、また現管理者においては、スタッフミーティングをこまめに行うなど従業員に配慮が行き届くよう考慮しており、従業員の業務環境としては良好なものであると考えている。

【委員】

事業所として社会貢献に関する取組状況が見えてこない。既に取り組んでいると思うので、可視化することを検討して行ってほしい。中高生や福祉専門資格取得の際などの実習等の受け入れや、障害者雇用率などが分かるようになっていると良いと思われる。

(2) その他

特になし。

7 まとめ（日本福祉大学教授 青木 聖久）

一般の障害福祉サービス事業所ではなく、指定管理による事業所となるため、この会議を始め、事業所を取り巻く実情を市民に可視化し、市民の理解を得ることができるよう努めていく必要があると思われる。この法人を任意指定した効果や、指定管理制度を活用した行政的効果を市民に対して可視化していき、利用者の高齢化や障害者の親なきあとなど多くの課題について議論が進められると良いと思う。